

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																												
日本工学院八王子専門学校		昭和62年3月27日		千葉 茂		〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111																												
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																												
学校法人片柳学園		昭和31年7月10日		千葉 茂		〒144-8650 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111																												
分野	認定課程名		認定学科名			専門士	高度専門士																											
工業	工科技術専門課程		電子・電気科 電子工学コース			平成21年文部科学省認定	-																											
学科の目的																																		
脱炭素社会に向けて変化が進む現代社会や、世界情勢によるエネルギー事情の変化、IoT、AIなど技術の発展に対応できる専門の学理と技術を身に付け、職業人としての 自負と実力を蓄え、社会の中堅たり得る人材、将来の電気業界を担う人材を養成する。電子工学コースでは、総務省による無線技術者養成の認定を受けており、実務に関する知識、技術及び技能を教授し、無線通信技術者及び電子回路設計・製作のできるエンジニアの養成を目的としている。																																		
認定年月日																																		
平成26年3月31日																																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技																										
2	昼間	1,710		1,350	0	840	0	0																										
時間																																		
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)		専任教員数		兼任教員数		総教員数																								
240人の内数		56人		0人		9人の内数		13人の内数		22人の内数																								
学期制度		■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 S:90点以上 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下不合格 P:単位認定																											
長期休み		■学年始:4月1日～ ■夏季:8月7日～9月9日 ■冬季:12月26日～1月6日 ■学年末:3月19日～3月31日			卒業・進級条件		【進級要件】 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること 【卒業要件】 ①卒業年度の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること																											
学支支援等		■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 欠席者に対しては、当日中に担任から電話・Eメール等で連絡することを基本とし、状況に応じて、数日続いた時点で保護者に連絡するなどの指導をしている。			課外活動		■課外活動の種類 創業作品展示会、展示会、工業展覧学、施設見学、研修センター見学、多摩地域企業見学説明、ボランティア活動																											
就職等の状況※2		■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) 出光興産(株)、(株)JVCケンウッドサービス、西尾レントオール(株)、富士フィルムGSテクノ(株)、一般財団法人 移動無線センター、NECネットワーク・センサ(株) 他			主な学修成果(資格・検定等)※3		■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)																											
		■就職指導内容 就職ガイダンス、就職模擬試験、合同企業説明会、個別企業説明会、業界研究会、模擬面接など					<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第一級陸上無線技術士</td> <td>①</td> <td>2人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>第二級陸上無線技術士</td> <td>①</td> <td>24人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>第一級陸上特殊無線技術士</td> <td>①</td> <td>8人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>高所作業車運転特別教育</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>酸素欠乏危険作業特別教育</td> <td>③</td> <td>45人</td> <td>45人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	第一級陸上無線技術士	①	2人	2人	第二級陸上無線技術士	①	24人	6人	第一級陸上特殊無線技術士	①	8人	8人	高所作業車運転特別教育	③	9人	9人	酸素欠乏危険作業特別教育	③	45人	45人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																															
第一級陸上無線技術士	①	2人	2人																															
第二級陸上無線技術士	①	24人	6人																															
第一級陸上特殊無線技術士	①	8人	8人																															
高所作業車運転特別教育	③	9人	9人																															
酸素欠乏危険作業特別教育	③	45人	45人																															
		■卒業生数 : 42 人 ■就職希望者数 : 33 人 ■就職者数 : 31 人 ■就職率 : 94 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 73 %					①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																											
		■その他 ・大学編入学 8人					■自由記述欄 無線技術士の最高峰 第一級陸上無線技術士を取得資格を利用し国土交通省航空空局に就職																											
		(令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日 時点の情報)																																

<p>中途退学の現状</p>	<p>■中途退学者 1名 ■中退率 1%</p> <p>令和2年4月1日時点において、在学者77名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者75名(令和3年3月31日卒業生を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由 進路変更</p> <p>■中退防止・中退者支援のための取組 担任と主任/科長による面談。懇談会・電話等による保護者との情報共有。 担任による指導のほか経済面では学費・奨学金相談窓口を設け、学生生活においてカウンセリングルーム等を設け個々の学生に適した指導・助言・相談等を行っている。 また、休学者にも復学(転科等)の指導・助言・相談も適時行っている。</p>
<p>経済的支援制度</p>	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有</p> <p>【片柳学園入学金免除制度】 学校法人片柳学園の設置する学校の卒業生の子女、兄弟姉妹および孫、または在校生の兄弟姉妹が入学する際に入学金を免除する制度</p> <p>【若きつくりびと奨学金制度】 社会に貢献する人材のさらなる育成を目的に、学ぶ意欲があり優秀な学生や経済的理由で就学が困難な学生に対し、返済不要の奨学金を給付する制度(成績優秀者特待生・課外活動優秀者特待生・資格特待生・就学支援奨学金・再進学特待生・留学生特待生)</p> <p>【再入学優遇制度】 日本工学院専門学校または日本工学院八王子専門学校の二年制学科以上の学科を卒業または卒業見込みの方が、本校の他学科への再入学を希望する際、入学選考料・入学金の免除、および審査により授業料等を減免する制度</p> <p>【留学生特別給付制度】 私費留學生の出願者全員を対象とし、入学選考試験の成績優秀者には進学支援として、入学金の一部または全額を免除する制度</p> <p>【ミュージシャン特待生】 ミュージックアーティスト科に特待生として出願し、試験に合格された方は、入学費用のうち入学金を免除する制度</p> <p>【サッカー・テニス特待生】 スポーツ健康学科・スポーツ健康学科三年制に特待生として出願し、試験に合格された方は、成績によって以下のいずれかを免除する制度 (入学手続時納入金免除、入学費用のうち前期授業料免除、入学費用のうち入学金免除、入学費用のうち入学金の一部を免除)</p> <p>【スポーツ特待生】 スポーツ健康学科・スポーツ健康学科三年制・スポーツトレーナー科・スポーツトレーナー科三年制に特待生として出願し、試験に合格された方は、成績によって入学費用のうち入学金または入学金の一部を免除する制度</p> <p>■専門実践教育訓練給付: 非給付対象</p>
<p>第三者による学校評価</p>	<p>■民間の評価機関等から第三者評価:有 特定非営利活動法人 私立専門学校等評価研究機構、平成25年度(平成26年3月31日)受審 <a href="http://www.neec.ac.jp/education/accreditation/">http://www.neec.ac.jp/education/accreditation/</a></p>
<p>当該学科のホームページURL</p>	<p><a href="https://www.neec.ac.jp/department/">https://www.neec.ac.jp/department/</a></p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱います)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本電子技術者の育成に向け、電子機器設計・製造、保守、情報通信、資格認定にかかわる企業や団体など電子業界を代表する技術者より、普遍的な技術や最新技術についての意見をまとめ、実験や座学の内容に反映をしていく。卒業生に不足するスキルについての意見をうけた場合、科目内容や実験内容に反映をする。大幅な変更が必要と判断をされた場合、カリキュラムに反映する。現在のカリキュラム内容や技術的な流れを第三者の目で確認し、電子技術者として必要な技術を普遍的技術、最新技術、過去の技術に分類し、現代社会に必要とされる技術力をもった電子技術者の養成に必要なカリキュラム、実験内容に更新を行っていく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、校長を委員長とし、学科責任者、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、副校長、カレッジ長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
高橋 和久	一般財団法人 家電製品協会	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	①
天野 祐一	東洋エンジニアリング(株) 代表取締役社長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	③
伊藤 晋之	一幸電子工業(株) 設計製造統括部長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	③
千葉 茂	日本工学院八王子専門学校 校長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	
山野 大星	日本工学院八王子専門学校 副校長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	
倉重 明	日本工学院八王子専門学校 教育・学生支援部 部長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	
坪井 勇次	日本工学院八王子専門学校 キャリアサポートセンター センター長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	
菅 禎彦	日本工学院八王子専門学校 科長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月・3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年9月29日 15:00～16:30

第2回 令和4年3月07日 15:00～16:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

業界では全般的な知識を持った技術者を必要としている。現在のカリキュラムであれば普遍的な部分を網羅しており問題はないとの意見を頂いた。リモート会議などが増加したため、より一層プレゼンテーション能力や、個々の意見をしっかりと伝えるようにしてほしい。実験ノートなどドキュメントの残し方をしっかりと身につけてほしい。低圧電気取扱などの資格、安全教育も取り入れてくれるとありがたい。昨年の課題であったマイコン周辺回路の取り扱いについて実習カリキュラムに織り込んで対応をした。今後、通信モジュールを含めた内容に変更をしていく。卒業製作など回路設計、製作にかかわるカリキュラム内で10回路の製作を経験させて行けるようにカリキュラムを調整した。ものづくりを拡大解釈し、人の暮らしをつかっていく。卒業製作などを利用しものづくりの充実をはかり、ものづくりの楽しさをアピールしてほしいとの意見をいただき、今後のカリキュラムを検討していく。

## 2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

### (1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

電子・電気分野に関する実践的な実習や演習を行なうため、教育内容に関するノウハウや最新技術の動向における助言、又は技術指導など企業等との連携により、社会のニーズに沿った実習内容や評価方法を取り入れる。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

### (2)実習・演習等における企業等との連携内容

デジタル通信機器の検査実験をエレクトロニクス通信実験の新課題として組み込み、実験手順、実機の評価方法などについてアドバイスを受けた。また、通信システム2にデジタル通信の特徴、試験方法を含めた。音声認識(スマートスピーカ)を実習に加えた。

### (3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ホームエレクトロニクス実験	スマートハウスに用いられるHEMS等について学びます。	(有)インフォソケット
家電製品技術	身近な家電製品、液晶テレビや地上デジタル放送システムなどについて学びます。	(合)オハナオフィス
マイクロコンピュータ	マイクロコンピュータの仕組みから動作、応用について学びます。	(合)オハナオフィス
デジタルテクノロジー実験	IoT スマート家電について実機を用いて学びます。	(有)インフォソケット
スマート家電技術	IoT スマート家電 AI等についてコアとなる技術を学びます。	(合)オハナオフィス

## 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

### (1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

### (2)研修等の実績

#### ①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「移動無線通信技術の発展と将来展望,そして研究開発の醍醐味」

(連携企業等:(一社)電子情報通信学会)

期間:令和3年07月16日(金)

対象:電子・電気科教員

移動通信システムの歴史を改めて復習し、6Gへ向けた将来技術動向・技術課題を学んだ

研修名「実践!IoT応用セミナー」

(連携企業等: 全国専門学校電気電子教育研究会/有限会社ワイズマン)

期間:令和3年09月22日(水)

対象:電子・電気科教員

製造現場でセンサーなどの取付、データの取得ができる人材を育成するカリキュラム、Arduino IDEを使用した演習を実施し、今後の活用方法を学んだ。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「Withコロナ時代を乗り越える!! ～志望意欲を高める育成型広報と入学前教育～」

(連携企業等:株式会社進研アド 営業本部 専門学校事業部)

期間:令和3年8月3日

対象:日本工学院八王子専門学校教員

高等教育機関を取り巻く環境変化から、志望意欲を高めるためのアプローチ、入学前教育の指導体制について、事例を元に紹介された。

研修名「学びを促すルーブリック」

(連携企業等:大阪大学)

期間:令和3年11月17日、令和4年2月16日

対象:日本工学院八王子専門学校教員

基礎編「ルーブリックの意義と作成方法」、応用編「ルーブリックの点検と改善」、グループワークを通じて、学生評価へのルーブリックの導入、作成方法、点検・改善について学んだ。

研修名「学生指導(メンタル面)における対応について」

(連携企業等:東京工科大学医療保健学部)

期間:令和3年12月7日

対象:日本工学院八王子専門学校教員

コロナ禍において、学生メンタルでの学生指導を事例を通じ、対応方法を学んだ。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「第70回電設工業展 JECA FAIR 2022」

(連携企業等:(一社)電設工業協会/旭日電気工業株式会社)

期間:令和4年06月1日～3日

対象:電子・電気科

電設工業展「脱炭素へのチャレンジ、電設技術が未来(地球)を守る」の見学を通じて、業界の取り組みを確認し、授業等に活用できる資料を作成する。

研修名「デジタル田園都市国家構想によるスマートシティの本格実装～地域のWell-being 実現に向けて～」

(連携企業等:日経経済新聞社/スマートシティ・インスティテュート(SCI-Japan)/デジタル庁 )

期間:令和4年06月30日

対象:電子・電気科教員

自治体DXとデータ連携基盤の構築、オープンAPI推進による都市間連携、住民視点のサービス実現に向けたデータ利活用など、スマートシティの本格実装に向けた様々なチャレンジを参考に、授業に活用できる資料を作成する。

研修名「エネルギー危機を乗り越えるために」

(連携企業等:日経経済新聞社/環境共創イニシアチブ/資源エネルギー庁 )

期間:令和4年07月19日

対象:電子・電気科教員

新型コロナウイルス感染症やウクライナ危機などの国際情勢を受け、電力・ガス・石油すべてのエネルギーコストが上昇しており、企業の生産活動や一般の国民生活への影響が懸念される中、国の政策や過去10年間の事業実績の分析、省エネ意識の高い企業や事業者の取り組みを参考に、授業に活用できる資料を作成する。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「基礎カリサチ説明会ならびに、今後の授業、学生対応方針検討」

(連携企業等:株式会社進研アド 営業本部 専門学校事業部)

期間:令和4年7月

対象:電子・電気科教員

基礎カリサチの結果を元に、夏休み明けからの実施に向けて、学科で重点的に指導を行う点、手法を検討。実施に向けて教員間の情報共有、意思統一を図る。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。

学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)理念・目的・育人人材像
(2)学校運営	(2)運営方針(3)事業計画(4)運営組織(5)人事・給与制度(6)意思決定システム(7)情報システム
(3)教育活動	(8)目標の設定(9)教育方法・評価等(10)成績評価・単位認定等(11)資格・免許取得の指導体制(12)教員・教員組織
(4)学修成果	(13)就職率(14)資格・免許の取得率(15)卒業生の社会的評価
(5)学生支援	(16)就職等進路(17)中途退学への対応(18)学生相談(19)学生生活(20)保護者との連携(21)卒業生・社会人
(6)教育環境	(22)施設・設備等(23)学外実習・インターンシップ等(24)防災・安全管理
(7)学生の受入れ募集	(25)学生募集活動(26)入学選考(27)学納金
(8)財務	(28)財務基盤(29)予算・収支計画(30)監査(31)財務情報の公開
(9)法令等の遵守	(32)関連法令、設置基準等の遵守(33)個人情報保護(34)学校評価(35)教育情報の公開
(10)社会貢献・地域貢献	(36)社会貢献・地域貢献(37)ボランティア活動
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

**(3) 学校関係者評価結果の活用状況**

学校関係者評価委員会会議の中で本校の行った自己点検の評価について  
評価委員からの主な意見は次のとおりで、それについての活用(対応)方法は以下のとおりとなります。

- ・コロナ禍の予測不能の事態や学生への対応が実に丁寧になされ成果を上げていることが理解できました。理事長を先頭に新たな取り組みも着実に進められていることに敬服します。
- ・SDGsに関連する学校としての取り組み。実質、関連項目や実施している事はあるかもしれないが、説明のなかで「SDGs」という言葉が出てこなかったの、関連する内容には入れても良いと思います。
- ・各分野において情報は常に更新されているので、教職員の方々の知識・情報もアップデートが重要と考えます。月1回の研修の成果・効果を確認するような取組も検討してはいかがでしょうか。
- ・コロナ禍において情報の収集・管理については難しい点も多いと思いますが、校友会・卒業生就職先とのコミュニケーション強化に努めていただければと思います。
- ・既に検討されていることと思いますが、保護者会もオンラインで開催するなど遠方でも参加できるような取組をされてもいいかと思ひます(環境によってオンラインが難しい場合などは個別に電話対応など。すでに実施されていたらご容赦下さい)。
- ・コロナ禍及びワクチン接種も個人の考えで必須に出来ない中、日本工学院八王子専門学校様の対応を含めた活動は非常に参考となり、勇気をもたらえるものでもありました。政府が明確な線引きをしていない現状では、企業も学校も探りさぐりにはなっていますが、多角的な面で情報交換を行い、この状況を乗り切っていければと思います。
- ・丁寧なご説明有難うございました。コロナ禍において、教育目標に掲げる「スチューデントファースト」を実現することは容易ではないと思ひますが、製作室や実習等の新設などの取組によって学生のモチベーションが上がることを期待します。また、私はテレビ技術会社の採用担当として、貴校からの応募者と毎年向き合っておりますが、近年、「どうしてもこの仕事に就きたい」という意気込みを持った学生さんが少なくなったように感じます。実際の現場に必要な技術は学校だけで習得できるものではありませんが、その魅力・楽しさをお伝えいただき、専門職に夢を持った「若きつくりひと」を多く輩出していただきたいと願っております。
- ・教職員の研修も外部のオンライン研修などを活用してはいかがでしょうか。外部のコンテンツを利用することで学内コンテンツを増やすヒントにはないかと思ひます。
- ・コロナ禍において進路決定率が上がったことは素晴らしいことであったが退学率が上がっている学科が気になりました。
- ・株主総会もオンラインの時代ですので保護者会もオンラインで出来たのではないのでしょうか。
- ・工学院の名前に合ったネットワーク、ICT等の環境を整えて上げて下さい。
- ・時節柄、授業を実施する事や様々な学生支援に工夫をされている事が十分に理解する事が出来、いつものことですが、感心させられる事ばかりでした。今後は、学生への「心のケア」をして頂ければと思います。メンタルトレーニング的なものも取り入れてもいいかと思ひます。

以上、学校関係者評価委員会において討議された内容を踏まえ、次の4点について検討し活用する。

1. コロナ禍において、教育目標に掲げる「学生中心主義」を教職員一丸となり実行する。
2. 学生・保護者からの要望に応えられるよう、今後とも万全な体制を整える。
3. 質の良い授業(オンライン授業含め)を提供できるよう、教員のスキルアップのための研修等を充実させる。
4. withコロナの新しい時代における高専連携・地域貢献・地域連携を模索していく。

**(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿**

令和4年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社)	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	卒業生/ IT企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 専務理事	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	地域関連
山本 哲志	株式会社フジ・メディア・テクノロジー 管理センター 総務部長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	クリエイターズ 企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	ミュージック 企業等委員
才丸 大介	株式会社カオルデザイン 執行役員 企画戦略室 室長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	デザイン 企業等委員
鈴木 浩之	株式会社田中建設 取締役 建築部長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	テクノロジー 企業等委員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	スポーツ 企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野循環器病院 事務長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	医療 企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

**(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期**

ホームページ 令和4年9月30日  
URL:<https://www.neec.ac.jp/public/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2)各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3)教職員	教員・教員組織
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6)学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7)学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8)学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9)学校評価	学校評価、令和3年度の項目別の自己評価表
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ

URL:<https://www.neec.ac.jp/public/>

授業科目等の概要

(工科技術専門課程電子・電気科 電子工学コース)令和4年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		ビジネススキル	仕事についての基礎知識などを養い、ビジネス能力を総合的に高めるためのトレーニングをします。	1・後	30	2	○			○			○	
2	○		キャリアデザイン1	就職に必要なマナーや一般常識などを学びます。	1・前	30	2	○			○		○		
3		○	英語1	英会話を中心に、テクノロジー分野の英語表現力の基礎を学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
4	○		サイエンス	サイエンスの知識として、物体の運動や力などについて学びます。	1・前	60	4	○			○			○	
5	○		テクノロジー基礎1	テクノロジーの基礎知識や計算手法について学びます。	1・前	60	4	○			○		○		
6	○		テクノロジー基礎2	ものづくり解析などに必要な数学を学びます。	1・後	60	4	○			○		○		
7	○		デジタル回路1	2進法や基礎論理回路、各種デジタル回路について学びます。	1・後	30	2	○			○		○		
8	○		電気回路1	直流回路などの電気回路について学びます。	1・前	60	4	○			○		○		
9	○		電気回路2	交流回路の考え方、法則、計算方法などについて学びます。	1・後	60	4	○			○		○		
10	○		電子回路1	アンプなど電子機器の原理や動作について学びます。	1・後	60	4	○			○		○		
11		○	ビデオ技術	画像や映像の記録、伝送の方法について学びます。	1・前	30	2	○			○		○		
12		○	オーディオ技術	スピーカーやマイクロホン、アンプなどオーディオ機器について学びます。	1・前	30	2	○			○		○		
13		○	家電製品技術	テレビ、地上波デジタル放送、HDD・BDレコーダなどの家電製品技術を学びます。	1・後	60	4	○			○			○ ○	
14		○	資格対策講座1	各種資格取得のためのバックアップ講座です。	1・前	60	4	○			○			○	
15		○	資格対策講座2	各種資格取得のためのバックアップ講座です。	1・後	60	4	○			○			○	
16	○		電子工作実習1	オーディオアンプなど簡単な回路の組立を通じ、電子技術について体験的に学びます。	1・前	60	2			○	○		○		
17	○		電子工作実習2	イコライザーアンプなど回路の組立を通じ、電子技術について体験的に学びます。	1・後	60	2			○	○		○		
18	○		プログラミング実習	C言語プログラミングを行います。	1・後	60	2			○	○		○	○	

授業科目等の概要

(工科技術専門課程電子・電気科 電子工学コース)令和4年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
19	○		エレクトロニクス基礎実験	デジタル回路、パルス回路、アンプなど電子回路の動作を学びます。	1・後	60	2			○	○		○		
20	○		テクノロジー実習	部品や簡単な回路の動作を実験を通じ学びます。	1・前	60	2			○	○		○		
21	○		パソコン実習	WindowsやOffice、インターネット利用上のマナー、エンジニアとしてのPCの利用方法を学びます。	1・前	60	2			○	○			○	
22		○	スポーツ実習1	スポーツを通じ身体を鍛え、人間力を高めます。	1・後	30	1			○	○			○	
23		○	インターンシップ1	企業研修で実際の現場を学び、実践力のスキルを高めます。	1・通	30	1			○		○		○	
24	○		キャリアデザイン2	社会人として必要な知識や自己表現力などを学びます	2・前	30	2	○			○		○		
25		○	英語2	英会話を中心に、テクノロジー分野の英語表現力の応用を学びます。	2・前	30	2	○			○			○	
26	○		電子回路2	発振回路や電源回路、オペアンプを使用した回路など、様々な電子機器の動作について学びます。	2・前	60	4	○			○		○		
27	○		マイクロコンピュータ	マイクロコンピュータのしくみや動作を学びます。	2・前	60	4	○			○			○	○
28	○		光エレクトロニクス	光通信や半導体レーザなどについて学びます。	2・後	30	2	○			○		○		
29	○		通信システム1	スマートフォンなどにも用いられる通信技術の基礎を学びます。	2・前	30	2	○			○		○		
30	○		通信システム2	デジタル通信技術など実際の通信機器について学びます	2・前	30	2	○			○		○		
31	○		計測技術	電子機器の計測方法、計測器の原理などについて学びます。	2・後	30	2	○			○		○		
32		○	電子回路設計	増幅回路や発振器などの設計方法を学びます。	2・前	30	2	○			○		○		
33		○	電子応用技術	GPSやIoT、AIなど様々な電子技術の活用法を学びます。	2・後	60	4	○			○		○		
34		○	オーディオ・ビデオ機器	ホームシアターなど、デジタルAV技術を学びます。	2・前	60	4	○			○			○	
35		○	スマート家電技術	スマートハウス、IoT、AIなどの技術を中心に、家電製品エンジニア、スマートマスターを目指します。	2・後	60	4	○			○			○	○
36		○	資格対策講座3	各種資格取得のためのバックアップ講座です。	2・前	30	2	○			○			○	

授業科目等の概要

(工科技術専門課程電子・電気科 電子工学コース)令和4年度															
必 修	分類		授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
37		○	資格対策特別講座	様々な資格対策を行います。	2・前	30	2	○			○			○	
38		○	資格対策講座4	各種資格取得のためのバックアップ講座です。	2・後	60	4	○			○		○		
39	○		エレクトロニクス通信実験	スマートフォンなどで使われる通信技術の実際を学びます。	2・後	30	1			○	○		○	○	
40		○	電子回路製作実習	増幅回路や発振器などの設計・製作を行います。	2・前	60	2			○	○		○		
41		○	デジタルテクノロジー実験	デジタルフィルタなどDSPの基礎などのデジタル技術を実験します。	2・前	60	2			○	○		○	○	○
42		○	家電機器修理実習	テレビなど家電製品の故障発見・対応などについて実習します。	2・前	30	1			○	○		○		
43		○	ホームエレクトロニクス実験	ホームシアターや地上波デジタル放送などの技術を実習します。	2・後	60	2			○	○		○	○	○
44		○	卒業製作	ものづくりを通じ、2年間で習得した技術を集大成します。	2・後	120	4			○	○		○		
45		○	スポーツ実習2	スポーツを通じ身体を鍛え、人間力を高めます。	2・後	30	1			○	○			○	
46		○	インターンシップ2	企業研修で実際の現場を学び、実践力のスキルを高めます。	2・通	30	1			○	○			○	
合計						46科目		2190単位時間(			118単位)				

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業時に必修科目1110時間(61単位)および選択科目600時間(29単位)以上取得し、合計1710時間(90単位)以上取得すること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週